

## 2020年11月実績概要（メモ）

（2020.12.17）

誘導品毎の定修実施の有無及び稼働状況から、生産は未だまだら模様。

## 1. 生産動向

イ) エチレン 540,000トン

前月比 + 4.4% (+22,800トン)  
 前年同月比 ▲ 2.1% (▲11,900トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	▲ 3.2 %	-
定修要因等	+ 9.2 %	▲ 0.1 %
能力増減	-	+ 0.1 %
稼働率変動	▲ 1.6 %	▲ 2.1 %
生産増減率	+ 4.4 %	▲ 2.1 %

稼働プラントの実質稼働率試算：前月95.8%\* → 当月94.4% ← 前年同月96.4%

定修プラント：前月1社1プラント → 当月1社1プラント ← 前年同月なし

本年1～11月の累計生産量 5,407.5千トン、前年同期比▲7.6%

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数減少とともに主に稼働率要因等からHDPE、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、トルエン、キシレンなどの9品目がマイナス。定修規模が減少したPP、PS、SM、MMAモノマー、SBRなどの8品目はプラスとなった。

前年比では、稼働率要因や定修規模差等から、LDPE、HDPE、塩ビモノマー、MMAモノマー、SBR、BR、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの12品目がマイナス。PS、SMなど5品目はプラスとなった。

## 2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比では、日数の減少や定修規模の増減がある中、主として稼働率要因からLDPEは微減、HDPEはマイナスとなった。一方、PP、PSは定修規模差と稼働率要因からそれぞれプラスとなった。

前年比では、稼働率要因からLDPE、HDPEはマイナス、PSは定修規模差と稼働率要因からプラスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比は、国内産業の生産活動並びに消費動向の持ち直しが進む中、前月に出荷が増加したLDPE、HDPE、PPは祝日の絡みからのユーザー側の稼働日数の減少もあり、いずれも減少することとなった。逆にPSは供給の減少等から前月に出荷が減少した反動もあり、当月は一転してプラスとなった。前年比では、LDPE、HDPE、PPで前年を下回る出荷となった。分野別では、PEではフィルム分野の出荷が低調のままとなっているほか、フィルム分野以外のほとんどの分野でも出荷が減少することとなった。PPでは射出成形分野はほぼ前年並みの出荷を維持しつつも、フィルム、繊維、押出成形分野の出荷が前年を下回りマイナスとなった。PSはFS用途以外の出荷が増加に転じ、当月は若干のプラスとなった。

ハ) 輸出

前月比では、海外の生産回復の動きに相俟った増加基調が一時的に鈍化し、当月はLDPE、HDPE、PPでマイナス。PSのみがプラスとなった。

前年比では、LDPEのほかPP、PSでプラスとなった。HDPEは供給量自体の減少もありマイナスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、HDPE、PSで減少し、LDPE、PPは増加した。在庫率(季節調整済)は前月に対してLDPE、HDPE、PPで上昇、PSは低下した。在庫水準としては、LDPE、HDPE、PPは適正からやや多め、PSはほぼ適正水準となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		10月末	11月末
LDPE	+ 2,200	3.0	3.3
HDPE	▲ 3,000	2.7	3.2
P P	+ 19,000	2.4	2.8
P S	▲ 2,600	1.7	1.5

以上